

新しい年の始まりに本を読んで、感想文を書いてみませんか？



第13回 新春南箕輪村図書館読書感想文コンクール

南箕輪村図書館では、児童のみなさんが優れた図書と出会う機会になることを願って、新しい年の始まりに読書感想文を募集します。おおぜいのみなさんのご応募をおまちしています。

本は家にある本、学校の本、村図書館の本、どの本をえらんでもらってもいいです

◆応募できる方◆ 村内の小学生のみなさん

本を読んで、感じたことや
考えたことを書いてね！

◆対象となる図書と読書感想文の字数◆



●小学3・4学年の部● 『椋 鳩十さんの作品』

対象図書 『大造じいさんとガン』や『片耳の大シカ』などの作品がある喬木村出身の児童文学家椋鳩十さんの作品の中から、みなさんが好きな作品を1つ選んで、読んで感じたことを書いてください。

読書感想文の字数 600字～800字程度。(400字詰めの場合は原稿用紙1.5枚～2枚)

※裏面に作品の1部を紹介してありますので、参考にしてください。

◆原稿用紙・応募票◆ 村図書館、学校図書館にあります。※市販の原稿用紙でも可

◆応募方法◆ 作品に応募票をそえて、2月1日(日)午後5時までに村図書館へ提出してください。

※1月30日(金)までに各学校図書館への提出もできます。

◆表彰◆ 「1・2学年の部」、「3・4学年の部」、「5・6学年の部」、それぞれに最優秀賞1点を選んで表彰します。2月下旬頃、図書館ウェブサイトでお知らせします。3月中旬頃、入賞者には表彰式で、賞状と図書カードを贈る予定です。

◆その他◆ 応募者全員に参加賞があります。応募作品はお返しします。

～『椋鳩十』さんの紹介と作品紹介(一部)～

1905年、長野県下伊那郡喬木村に生まれる。『大造じいさんとガン』は、国語の教科書にのっています。喬木村に、椋鳩十記念館・記念図書館があります。

作品名	どんな内容？
母ぐま子ぐま	「しんでは いけない。しんでは いけない。」はげしい痛みで気が遠くなる中、母ぐまは二ひきの子ぐまを思い、のうみそのおくの方でさけびました。
藤吉じいとイノシシ	藤吉じいさんとまごの一郎は、ふかぶかとつもった落ち葉のうえにねっころがりました。ところが、落ち葉がもくもくともりあがつたのです。
大造じいさんとガン	かりゅうどと がんの、てきか味方か関係をこえた、あついまじわりをえがいたお話。
はらっぱのおはなし	ススキはらの中で、お母さんキジがたまごをあたためています。そのたまごを、おなかをすかせてからすがねらっています。
金色の足あと	がけから落ちた正太郎を助けてくれたのは、二ひきのキツネでした。
ひとりぼっちのつる	ひとりぼっちで暮らす子どものつるは、寝るのも食事もたたかうのもひとり。「おまえも、わしたちのなかまに入れてやるぞ」そのしるしをうける時がはじめてきました。
月の輪グマ	30メートルもある滝の上から、おそろしい顔をした母グマが、子グマを助けようと飛び込んだのです。
山の太郎グマ	たきぎ小屋でねていると、なまぬるいやわらかいものが、顔をペロペロとさわります。おどろいてとびおきると、なんと大きなクマが顔をなめまわしていました。
片耳の大シカ	どしゃぶりで、かみなりのなりひびく冬の山。シカのむれをおつていたりょうしたちはほら穴ににげこむと、そこにはシカやサルがからだをよせあっていました。
アルプスのキジ	川原のやぶで見つけたかわいらしきキジのたまご。たかひととまつおは守っていこうと約束します。ある朝、起きてみると大変な雨。キジのたまごが心配です。
片足の母スズメ	片足のスズメが、ちいさなたまごをうみました。ある日、その巣からヘビがはいだしていきました。巣をのぞくと……。

椋鳩十さんの作品はこの他にもあります。みんなの好きな作品を選んで、感想文を書いてください。